



# 自殺者3万4千人 労働環境の悪化で 心の健康破壊が拡大

リストラの影

「ある日、急に会社へ来なくなる労働者が増える」日立「休職中の労働者の割合が増加」富士電機など全国的に心の健康破壊（精神障害）が深刻化しています。

沖電気でも「三ヶ月以上傷病で休む人が増加中で休職中の六四％が精神的な原因、三年間で一、五倍化している」と報告されている。（中央労働協議会）

交通事故は一万余人の死者ですが、仕事・雇用関係での自殺者は急増し、働くストレスが原因の労災申請は〇三年「小さくても輝く自治体、群馬のつどい」に参加しました。

今、全国で市町村の合併問題が議論されています。長野県の栄村での合併しない自治体活動が目され、村長の高橋彦芳氏の講演が行われました。内容は私にとって大いに考えさせられるものでした。戦後の日本の近代化を二つの潮流があると見え、（1）人間の存在状況を基本とするもの、（2）近代化の条件を数量的にとらえる事を基本とするもの、（1）は人間は個人として尊重される各種法理念が50年代にあった、（2）は社会的価値は市場における交換価値で決まり、生産力の低い山村の住民は地元で自信を失くし足元が見えなくなる。

度・四三八件（厚生労働省）で過去最多を更新中です。

労働時間の短縮が鍵

「過重労働による健康傷害の発祥確立高くなるのは、月八〇時間を超える時間外労働」（東京労働局）の発表にあるように要員を確保した時間管理の適正化や年休取得の向上が急務です。

また、三年間で不正が摘発されて後払いされた残業代金（ただ働き）は沖電気で一億円、全国で四百億円を超えている。成果主義賃金になり時間による賃金制度が破壊されている事も原因です。

働き方の見直しが必要

そこで、栄町では実践的住民自治を基本とした政策で、国の補助事業に頼らない。「田直し」：農政の統合化など（水田1290枚を491枚に）、「道直し」：行政と住民の協働で実施

## 「市町村合併って」

「げたばきヘルプ体制」住民の160人をヘルパーに育て、24時間居宅介護を行って、24時間居宅介護など地域農産物の知恵と技を活かした活動を自治体が支援してきた。

一人ひとりが輝く為に、各自が得意を活かし、絵手紙、月夜のコンサート、子供と大人の和太鼓など道端芸文協を組織して内外と交流したり、学校と地域の連携で自然学校

国際労働機関（ILO）は「働く人々と家族が健康で安全な生活、安心した老後が求められるような仕事と賃金と権利が守られること」（ディールセント・ワーク）を二十一世紀の戦略にしていますが、日本の現状は逆行しています。経済のグローバル化（世界化）を謳う日本の労働条件・働き方の改善は、世界の人々の労働条件にも強く影響する事になり、これこそが国際貢献といえます。



森遊クラブなども取り組んでいる。

2月、雪のピーク時に体育館に600人が集合し、「一人ひとりが輝く自治体フォーラム」を3回主催するなどして「合併しない」を選択した！住民に封書で出したアンケートは、92％の回収率となった。とのこと。

平成の市町村合併は、ポスト福祉国家体制からグローバルな自由主義国家体制へ転換する政策の一つである。「徹底した情報公開と、最終的には住民自身が決めるといふ原理原則を押さえた上で住民の目線で運動することが大事」と。民主主義が徹底されれば自ずから体制は変わってくる。運動の大切さと大変さを体中

## 「MBO」の運用に疑問！

八王子

二〇〇四年下期に入りMBOの作成が各人に課せられています。そのための部/チーム内で「ファミトレ」が行われるのが通常です。しかし、ある職場では一度も「ミーティング」が開かれておらず「MBOが正常に機能しているとは思えない」の声が上がっています。

理由には上司と本人との面接（方針作成過程及び結果について）がこの間一回も行われていない。「公平性・納得性・透明性」の確保がMBOの運用理念のはずですが誰がどのような基準で行っているか間の中。生活に密着している賃金、一時金、今後更に退職金（年金ポイント含む）の評価が以上のような杜撰極まりない状況下でくだされることなどです。

## ハートフルな職場を直ちに

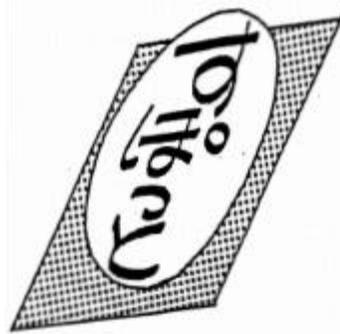
本庄

メンタルヘルスの強化が労働組合の方針にも掲げられています。本庄ではこの六ヶ月間に二人も自ら命を絶つという悲しい出来事が起きました。異常な事態です。ご家族のこころを思うと胸が痛みます。身近な人だっただけに何とかできなかったのかと悔やまれます。様々なストレスの中、声をだしあい、心をつなぎあい、

## 進む解体工事

東京

芝浦地区の建物の解体が始まって四ヶ月経過した。防音シートから見える6号別館は真ん中から穴が開き無残な姿である。芝浦工場に入社し、6号別館で働いた人たちがとってはつらい風景である。昭和の初期に建ち、戦禍にたえ、時計台があつて丸い窓をもつ建物は芝浦の街のシンボルだったそうだ。「どうして壊すのだ」と通行人に言われたという社員もいた。半分以上取り壊されているが、あらためて見ると気高く美しささえ感じられる建物である。



## 不払残業なくなるの

沖エアフォルク

沖エアフォルク（OEF）では、サービス残業について、社長からメッセージが寄せられました。それによると「F」Hとは「発生している時間外労働をカットすることで「H」とは「発生している時間外労働をカットすることではない」「このような故意の操作が能率向上の疎外要因の分析をできなくする」として

一方「労働時間の多さで人を評価しない」「就業記録（週報）を正当な理由なく修正しないこと、自らカットすることもため」ということが強調されました。

「これまでも・・・たら」のやり方がまかり通っていたOEFですがみんな力で力を合わせられる職場の環境づくりが求められます。

## 富岡市に世界遺産が

群馬

富岡工場のある富岡市で歴史上有名な建物といえば「富岡製糸場」日本の近代史で必ず出てくる名称で、富岡工場から車で十分足らずのところにあります。

この「富岡製糸場」をユネスコの世界遺産に登録させようとする動きが活発化してきました。建物を所有する片倉工業が、登録の前提となる国の重要文化財を受け入れる意向を決め「世界遺産登録推進委員会」が本格稼働することが報道されました。

日本で最初の官営製糸場だった富岡製糸場は、明治初期に民間企業が興つてくるなかで民間に払い下げられた歴史があります。当時、農民の地租でまかなわれていた政府資本の工場が格安の価格で払い下げられ、政府の保護の元で利益を独占してきたことを思うと、農民の犠牲の上に日本の近代産業が発達してきたことを改めて知らされます。